

旅の道標

—伊勢参宮ミュージアム—



敷地

三重県伊勢市河崎 1 丁目

伊勢は伊勢神宮の門前町として発達し、現在でも多くの参拝客や観光客が訪れる。伊勢市駅の利用人数は一日あたり約 6,600 人。敷地周辺には宿泊施設などの観光客が滞在する施設のほか、スーパーマーケットや住宅などが立ち並ぶ。高架を抜けると外宮の参道へと繋がる道へとアクセスできる。

アクセス：近鉄山田線伊勢市駅から徒歩 5 分



JR 伊勢市駅前



伊勢神宮外宮



伊勢市駅北側



近隣商業地域
敷地面積 7,428 m²
建蔽率 80%
容積率 200%



勢田川沿いの
河崎の古い町並み

伊勢市駅周辺の
宿泊施設



勢田川沿いに建ち並ぶ建物



河崎の道に設置してあるマップ



蔵を再利用したカフェ



河崎の特徴である妻入りの建物

河崎

伊勢湾を渡ってきた伊勢神宮への参拝客が上陸する河岸を中心に、室町時代から江戸時代にかけて発達した町である。水運により食物が多く運ばれて、「伊勢の台所」として知られていた。現在はまちなみ再生が積極的に行われており、蔵の町まちとして活気を取り戻している。

現状

- 線路によって伊勢市駅の南北が分断されている

線路の北側の地域にも観光地はあるが、伊勢市駅南側に位置する伊勢神宮・外宮へと観光客が流れていくため、北側へ訪れる人は少ない。



外宮参道の入り口には土産物屋や飲食店が建ち並び賑いがある。



伊勢市駅の近鉄側の改札。乗客の多くは陸橋を渡り JR 側を利用する。

- 公共施設が伊勢市駅の南側に集約されている

市役所、図書館、市民センター（パーティ伊勢）などの施設は伊勢市駅の南側に集約されている。伊勢市駅の北側で暮らす人々が集まって利用できる施設が身近な場所に必要である。

将来像

- 伊勢市駅の北側での観光の役割

計画する施設を中心都市で、周辺の宿泊施設や伊勢の観光地との関係をつくりだす。



- 河崎のまちづくりとの関連

まちで暮らす人々が寄りあう場所として、住民同士の関わりを深める。そして現在行われている山田地区の活性化にも関わる機会を生み出す。

コンセプト

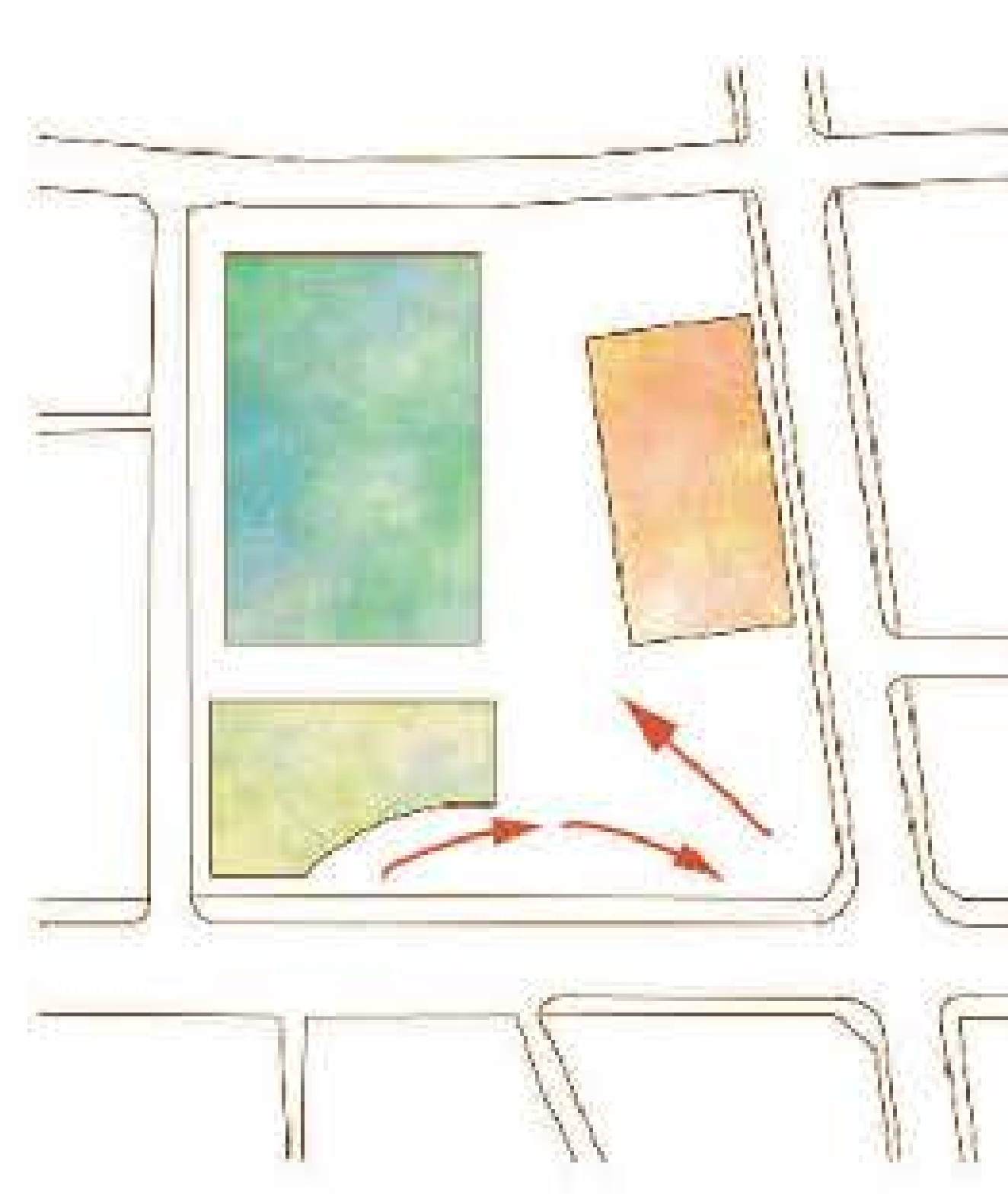
賑いへと導き、旅へ送り出す

参宮の回顧と再生

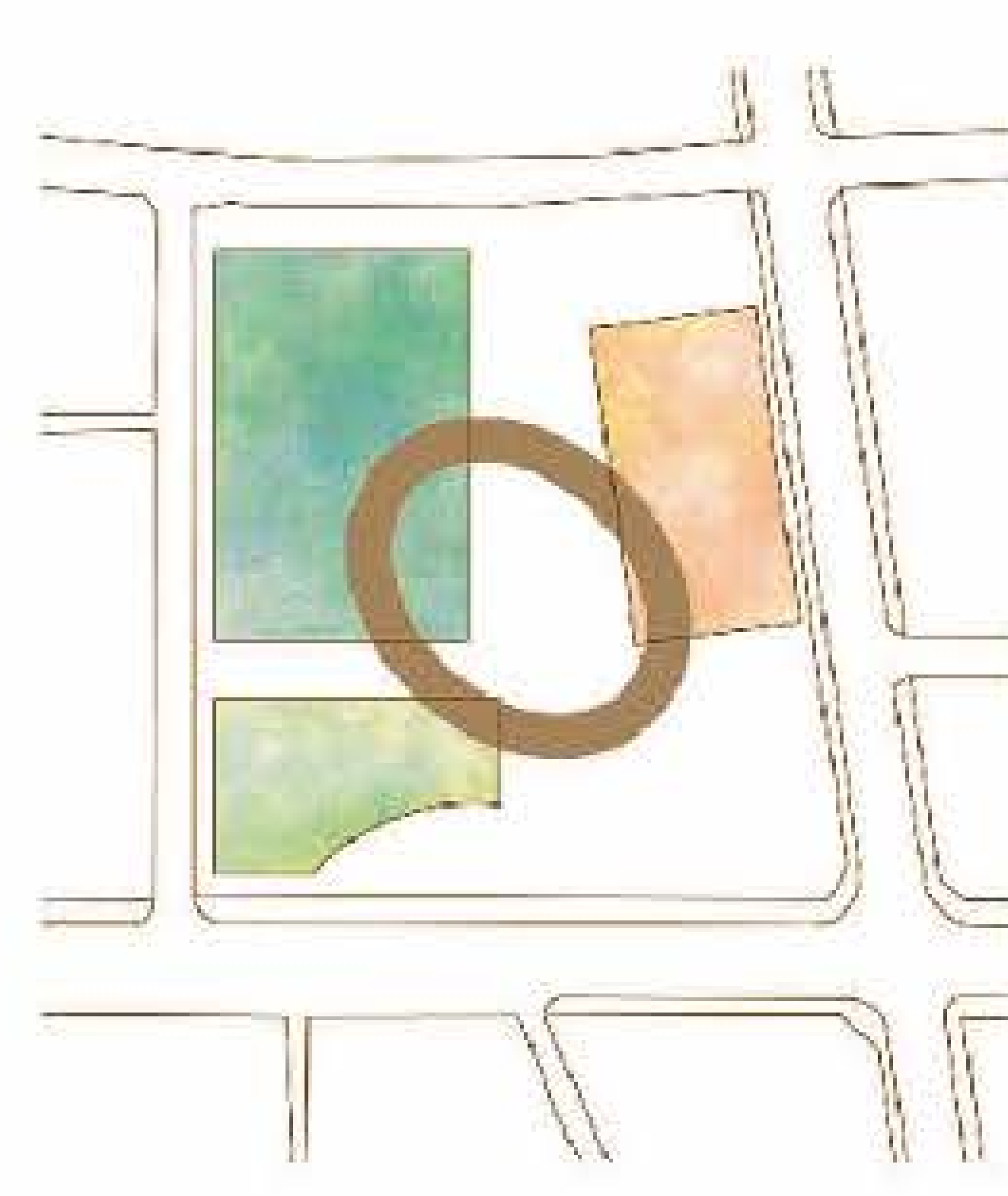
□ダイアグラム



河崎のソト・伊勢市駅のウラとなる場所に人を呼び込むきっかけの場所をつくる



建物を分割し河崎へ導くファサードと中へと導く中庭をつくる



分割した 3 つの建物を楕円形の底と中庭で繋ぎ一体感をもたせる



中庭と建物の形態を底の楕円形に合わせてファサードとも繋げる

■提案

観光客とまちの新たな拠点をつくりだす

伊勢の旅を伝える

江戸時代から人々になじみ始めた伊勢参宮をテーマとしたミュージアムで参宮の歴史に加えて、伊勢の観光名所を伝え、この施設からはじまる旅の形をつくる。

河崎の人々が集う

ミュージアムと商業施設、ホールを複合させて、河崎で暮らす人々が利用できる身近な存在とする。観光客とまちの人々が訪れ、共に利用できることを目的とする。

□プログラム

ミュージアム

伊勢の旅の歴史・観光地としての魅力をパネル、映像、ジオラマ等を通じて伝える。

ミュージアムショップ+ライブラリー

伊勢の特産品、展示されていた食材などを販売する。ライブラリーは資料などの所蔵に加えて観光の情報も提供し、旅の計画を立てることができる。



ホール+レストラン

ホールはミュージアムの講堂と市民ホールの二つの役割を持つ。レストランでは伊勢名物やお伊勢参りでの食事の再現を体験することができる。

□設計手法

<庇><中庭><高低差><ファサード><入口の階段>という5つの要素を挙げる。そして、これらを用いて3つの建物を計画する。

3つの建物をひとつのまとまりとする要素



外部へと効果を与える要素

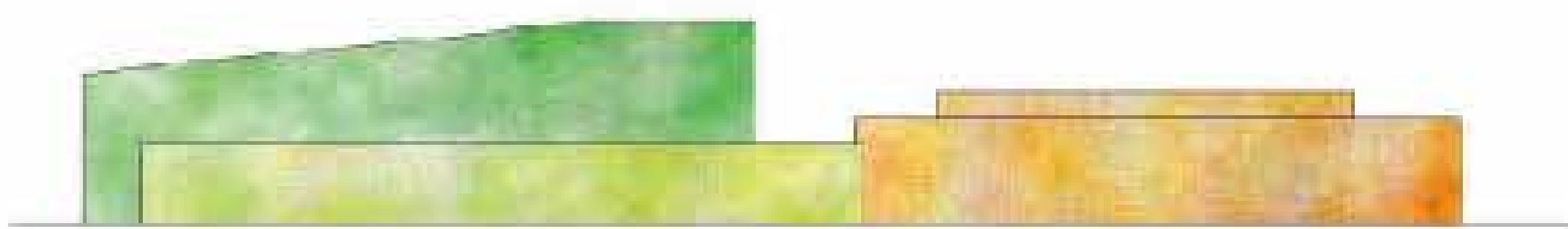
<庇>

道路に面するファサードからつながる庇は3つの建物を繋ぐ。外部から内部へと人々を導き、一体感を生み出す。

<中庭>

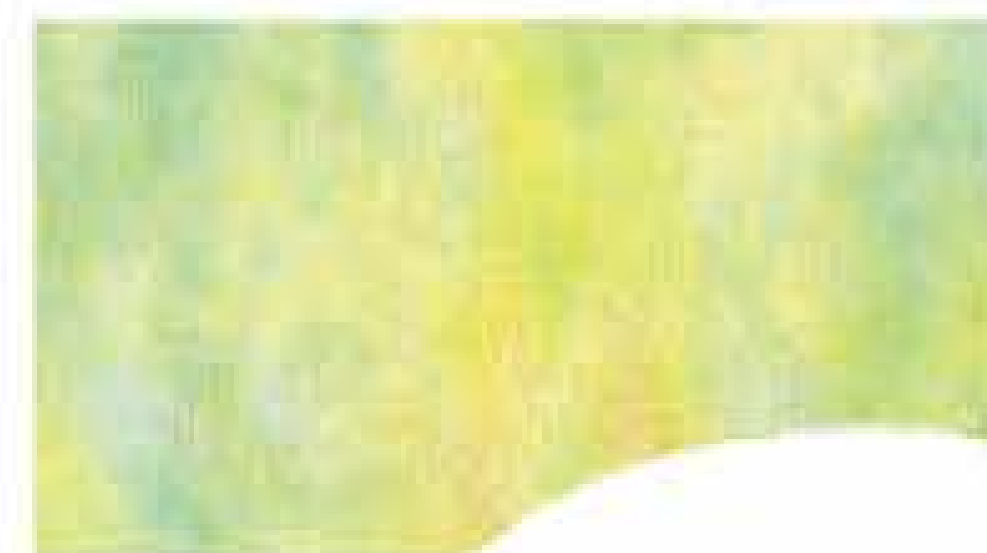
中庭を介した建物の関係をつくる。建物同士の視線の交差や、外部からへ広がり内部へ引き込むことにより、3つの建物がひとつの空間を包括する。

河崎の特色を反映する要素



<高低差>

正面の建物の高さは周辺の民家や歩行者のスケールに合わせて、建物、庇を低めにする。ミュージアムは屋根勾配をつけることで3つの中でも存在を際立たせる。



<ファサード>

駅から道に沿って歩くと見えるカーブは河崎の古い町並みへと誘う。中庭へ広がる空間は人々を迎え入れる。



<入口の階段>

階段を数段のぼり蔵の中へと入るといって河崎の蔵の特徴をミュージアムに取り入れ、河崎に立地する個性を表現する。

□モデルケース

この施設がどのように利用されるのか、観光客と河崎で暮らす人の2つのケースに分けて考える。

テーマ

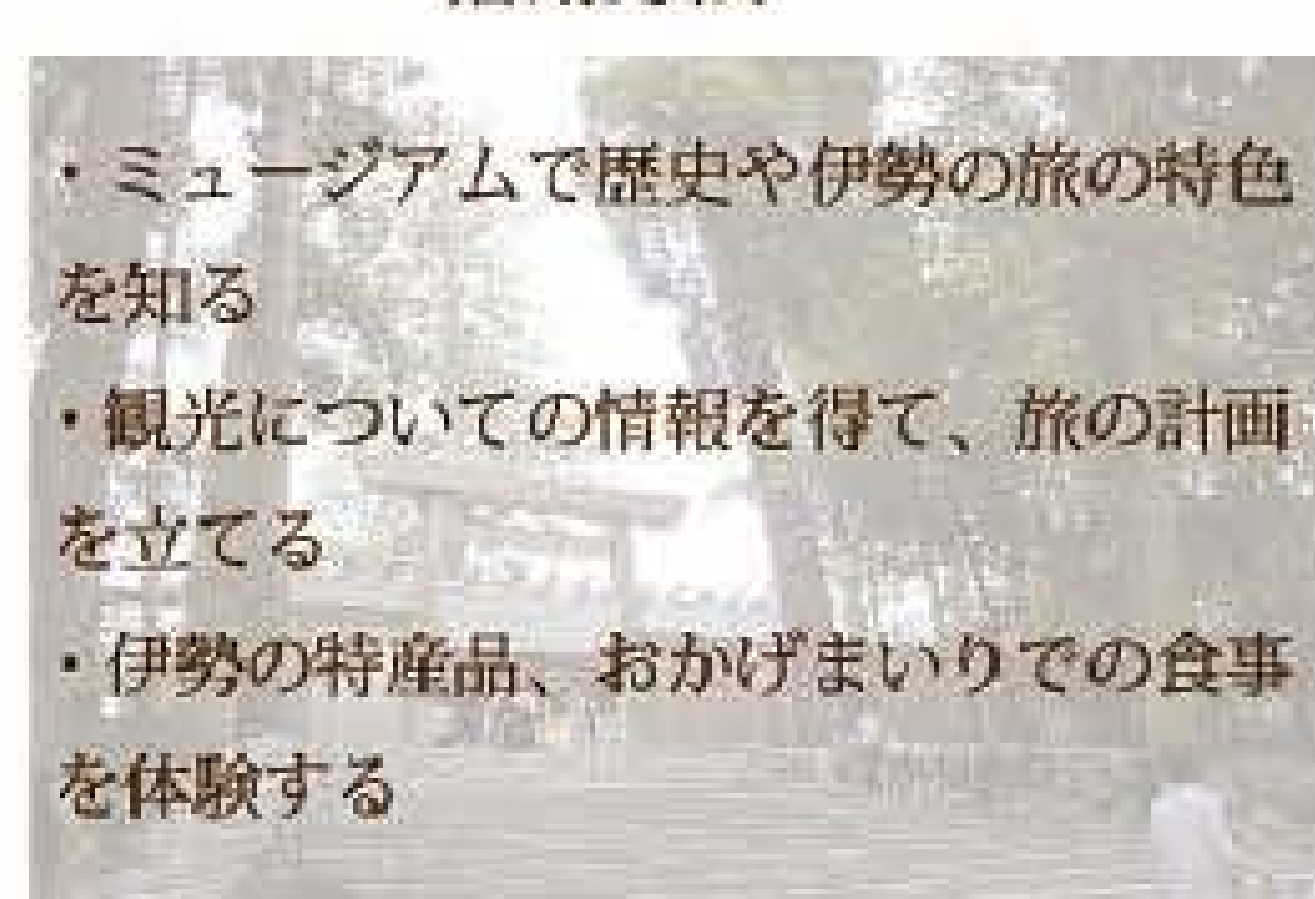
活用方法

効果

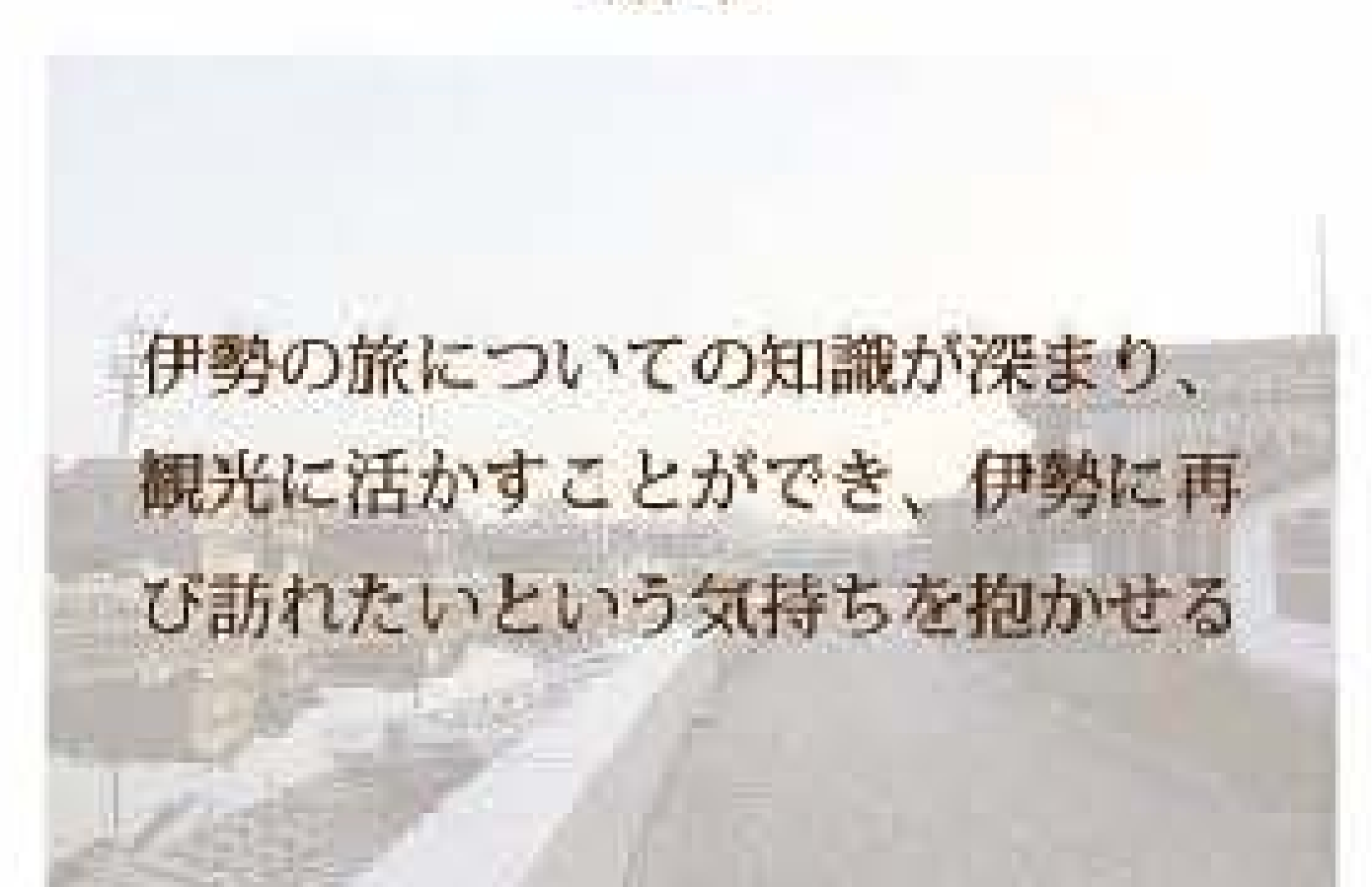
観光客



伊勢の旅を知る



- ・ミュージアムで歴史や伊勢の旅の特色を知る
- ・観光についての情報を得て、旅の計画を立てる
- ・伊勢の特産品、おかげまいりでの食事を体験する

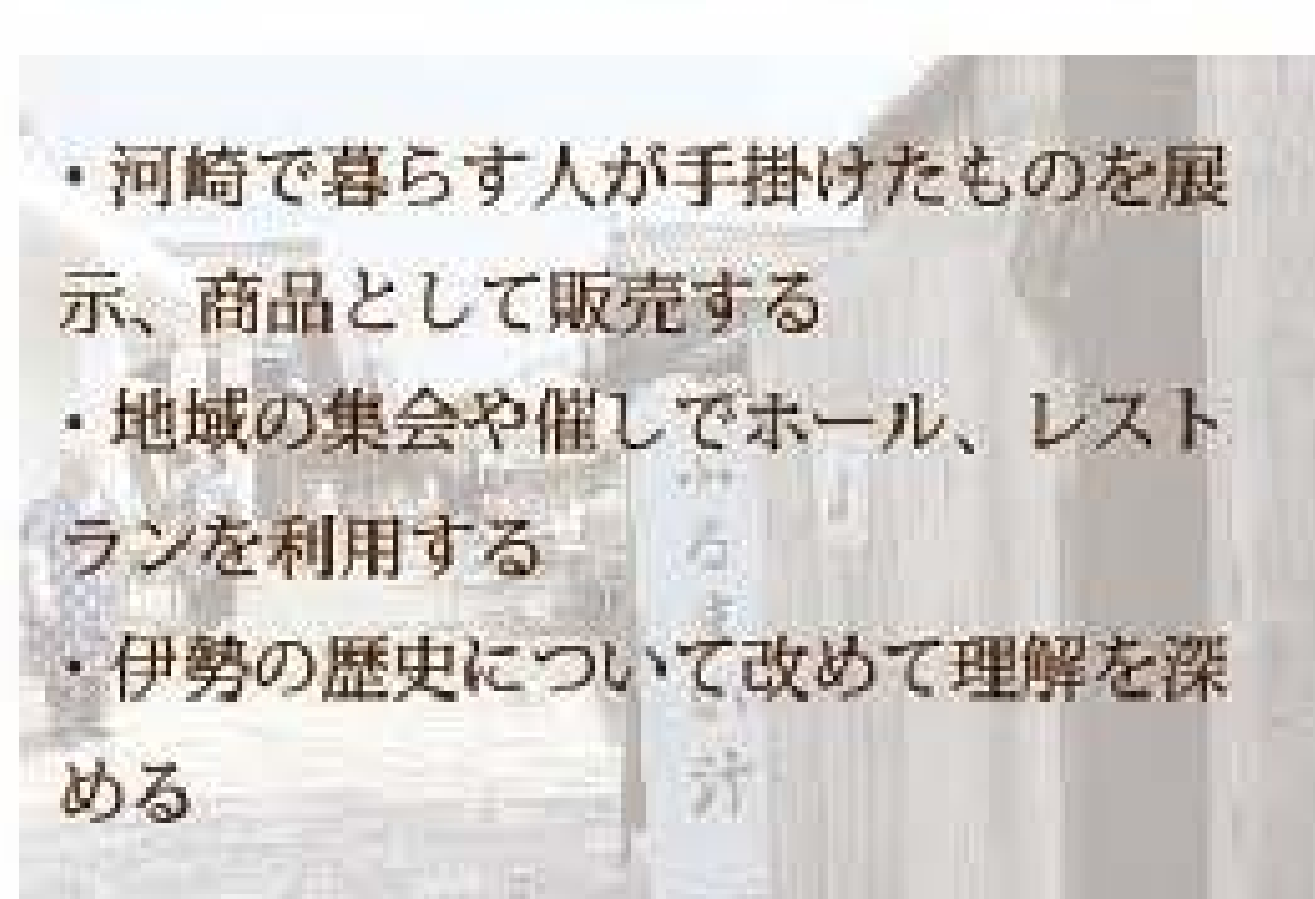


伊勢の旅についての知識が深まり、観光に活かすことができ、伊勢に再び訪れたいという気持ちを抱かせる

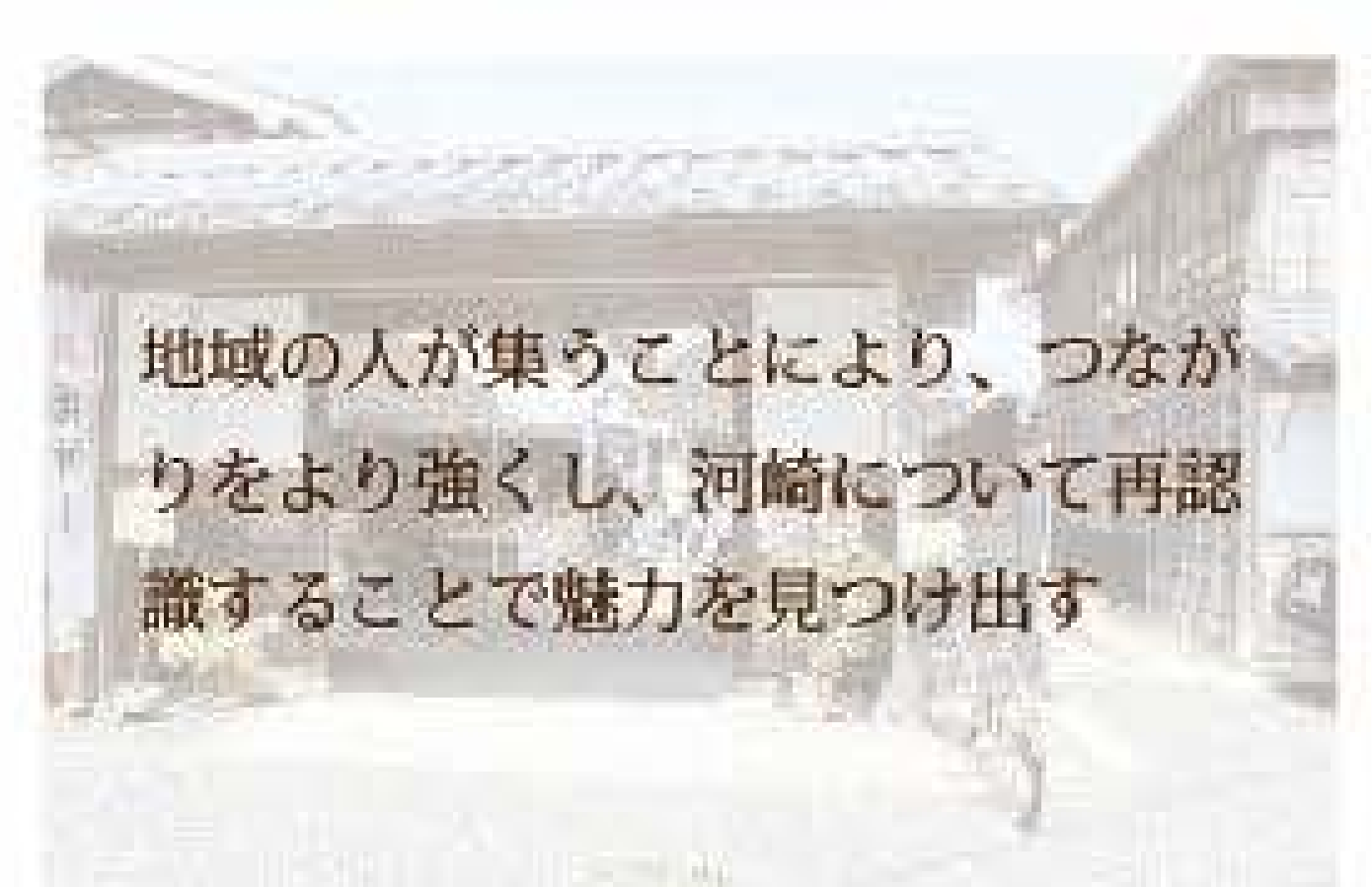
河崎で暮らす人



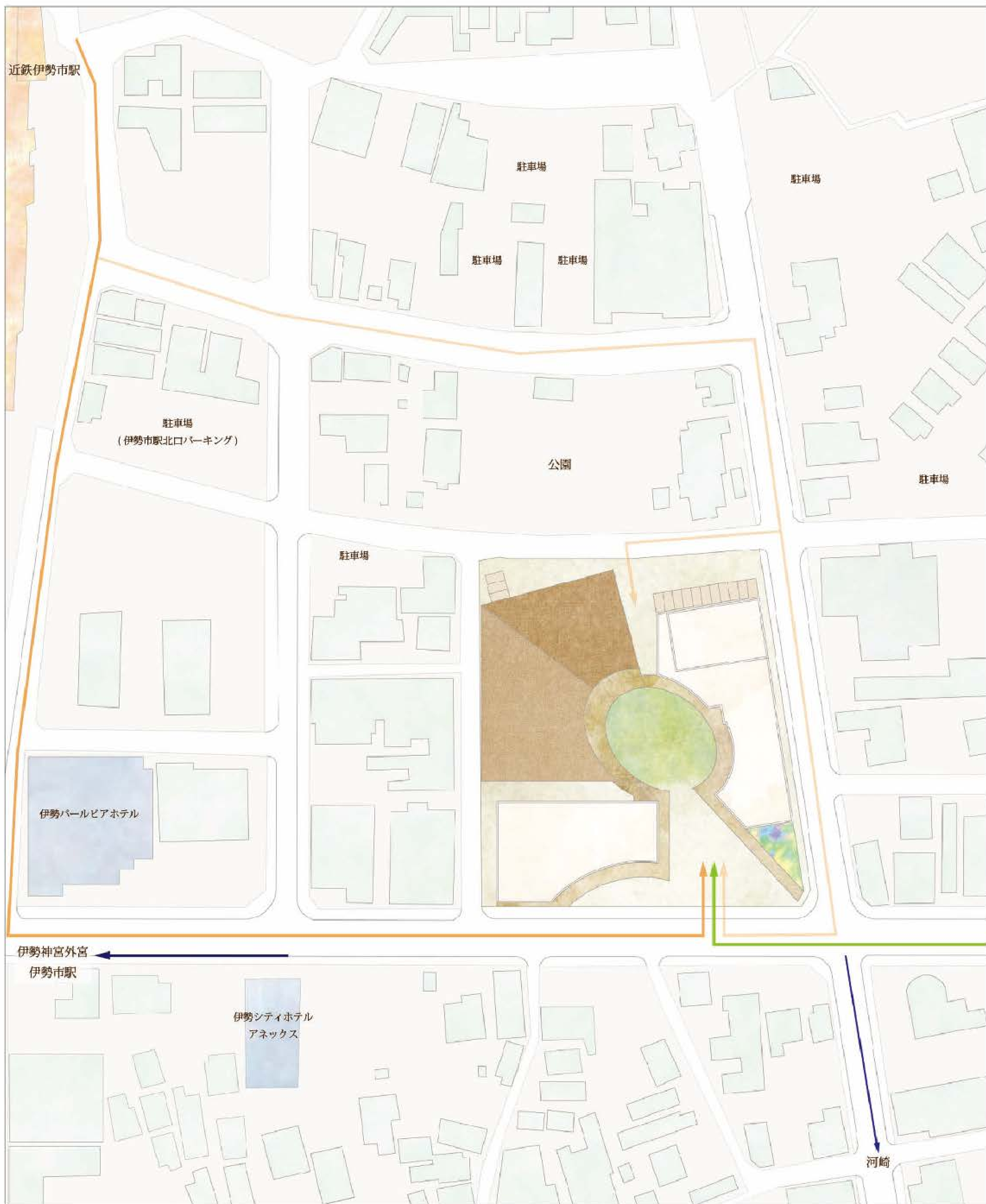
伊勢の旅の歴史や河崎地区のつながりを再認識する



- ・河崎で暮らす人が手掛けたものを展示、商品として販売する
- ・地域の集いや催しでホール、レストランを利用する
- ・伊勢の歴史について改めて理解を深める



地域の人が集うことにより、つながりをより強くし、河崎について再認識することで魅力を見つけ出す



敷地周辺には駐車場が複数存在する。この施設を拠点として、徒歩や公共交通機関を利用して周辺の観光地へ行くことを目的にするため、敷地周辺の駐車場を利用することをもとに考える。
 また、徒歩1分の場所には宿泊施設があり、伊勢への観光客が利用する場所である。
 アクセスは駅からは2つのルートがあるが、主要なルートは敷地東側を通るルートである。河崎で暮らす人の利用するルートも敷地東側のルートである。

配置図(屋根伏図) 1/500



■敷地周辺写真



敷地西側の公園



河崎方面から西を見る



敷地北東の交差点から西を見る



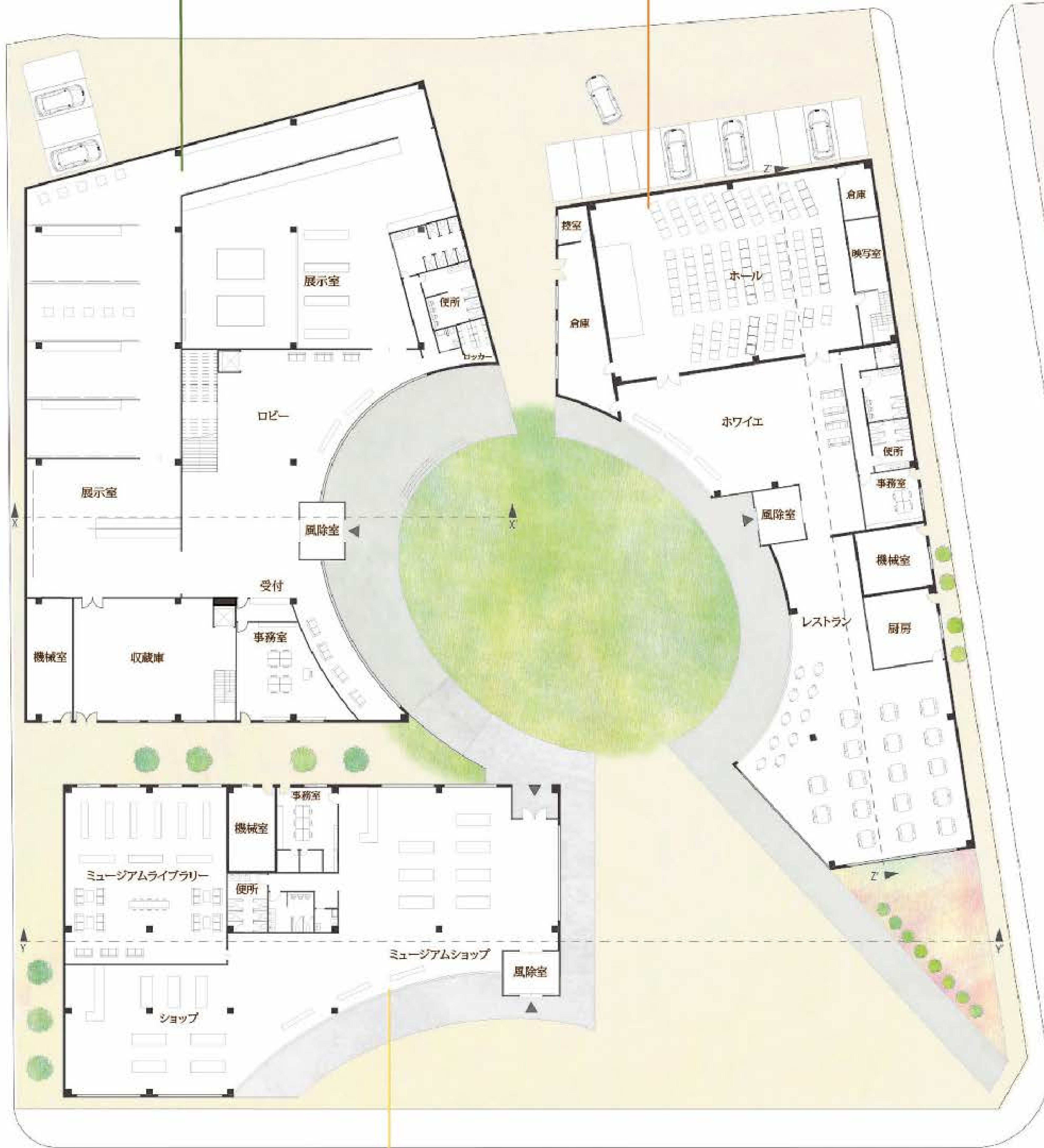
敷地北東の交差点から北を見る

ミュージアム

一度中庭へ入ってから建物へと入ることで道路に面する建物とは異なる雰囲気を感じられる。

ホール+レストラン

東側の道路に面する部分には花壇、レストランを配置して、内部の様子を見せることで、人々を誘う。ホワイエを通してレストランとホールがつながり、相互に利用できる。



ミュージアムショップ+ライブラリー

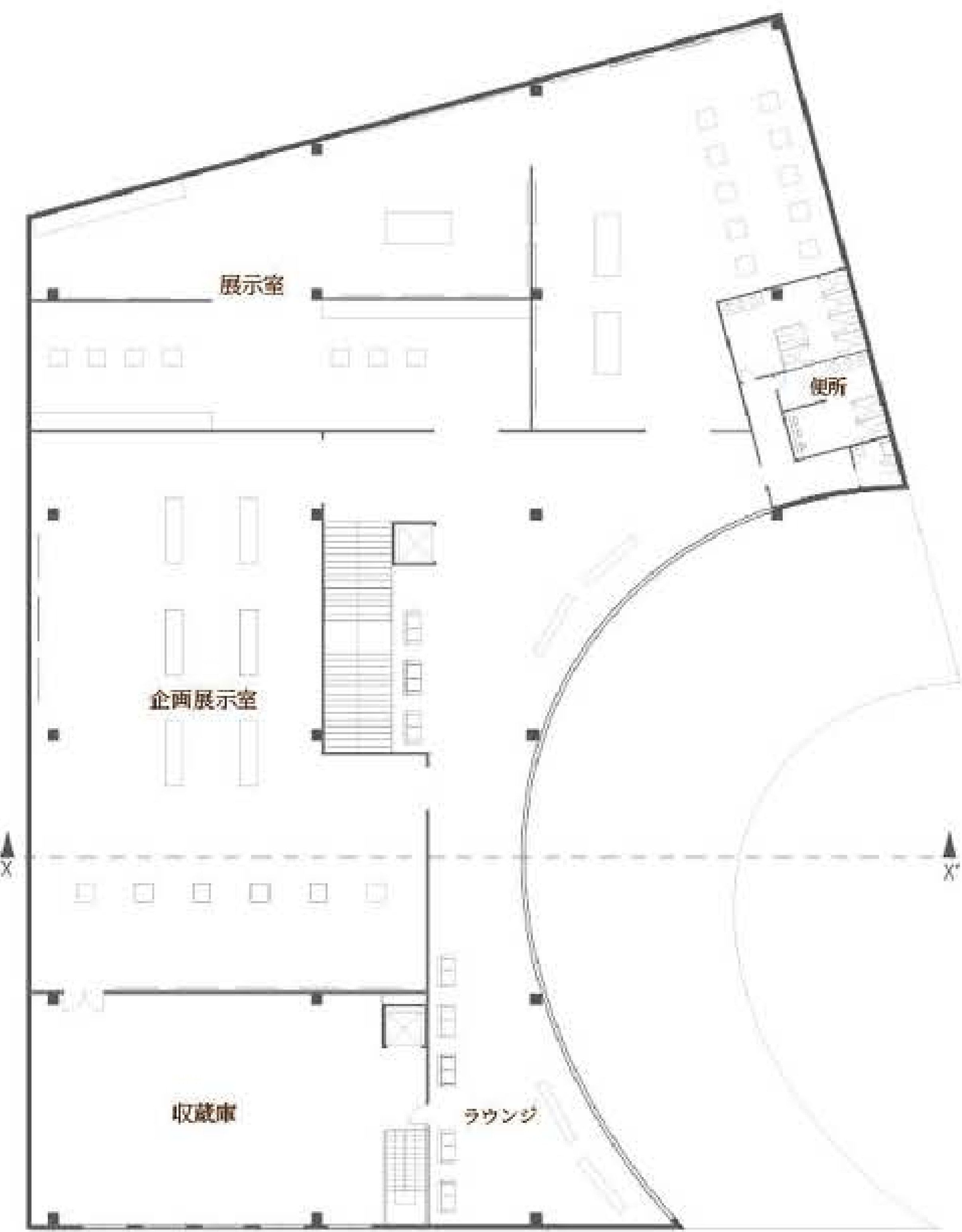
利用頻度が高いショップは、道路に面した場所に配置することで通りがかる人々に賑いを見せる。ミュージアムを利用者もアクセスしやすいようにライブラリーも同一の建物内に配置する。

1階平面図 1/200

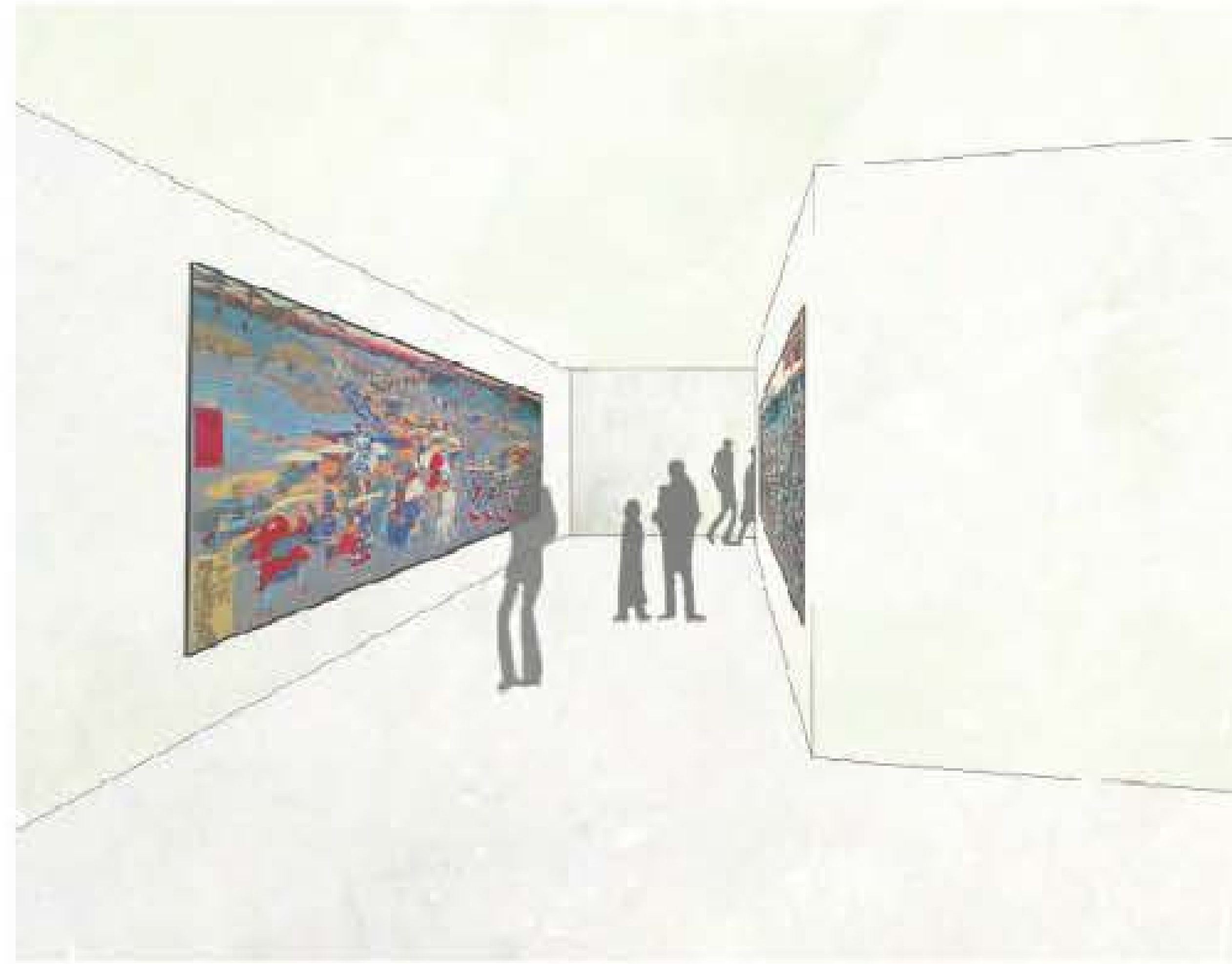
敷地面積 7,428 m²
延べ面積 6,185 m²
建蔽率 63%
容積率 83%

0 5 10 20 40m

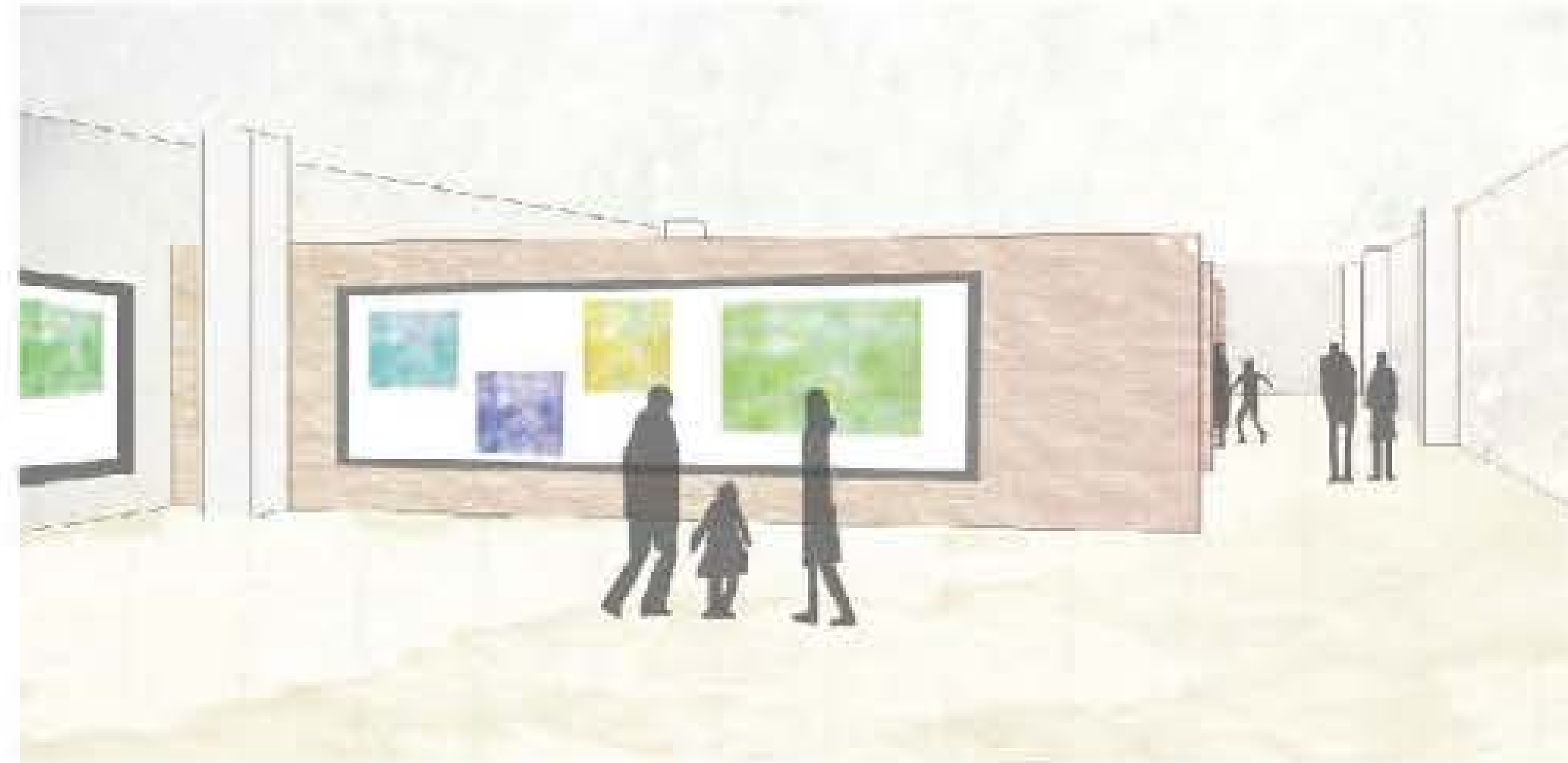




2階平面図 1/200



映像でおかげ参りの様子を体験する



1階の展示室の内観パース
5つに分かれたブースでは各地から伊勢までの参宮の旅路の展示を行う

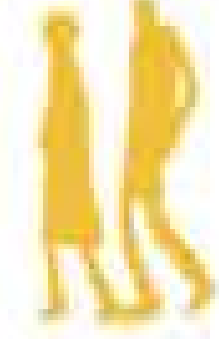
展示内容

1. 伊勢参宮とは
パネルによる伊勢参宮の紹介
2. 江戸時代の伊勢参宮
参宮の旅路
伊勢の接待料理
おかげ参りの歴史
御師・御師屋敷について
伊勢街道の賑い
3. 現在の伊勢参宮
参宮の変遷
周辺の観光スポットの紹介
おすすめの土産・観光地の情報



伊勢参宮略図并東都大伝馬街繁栄之図

観光客



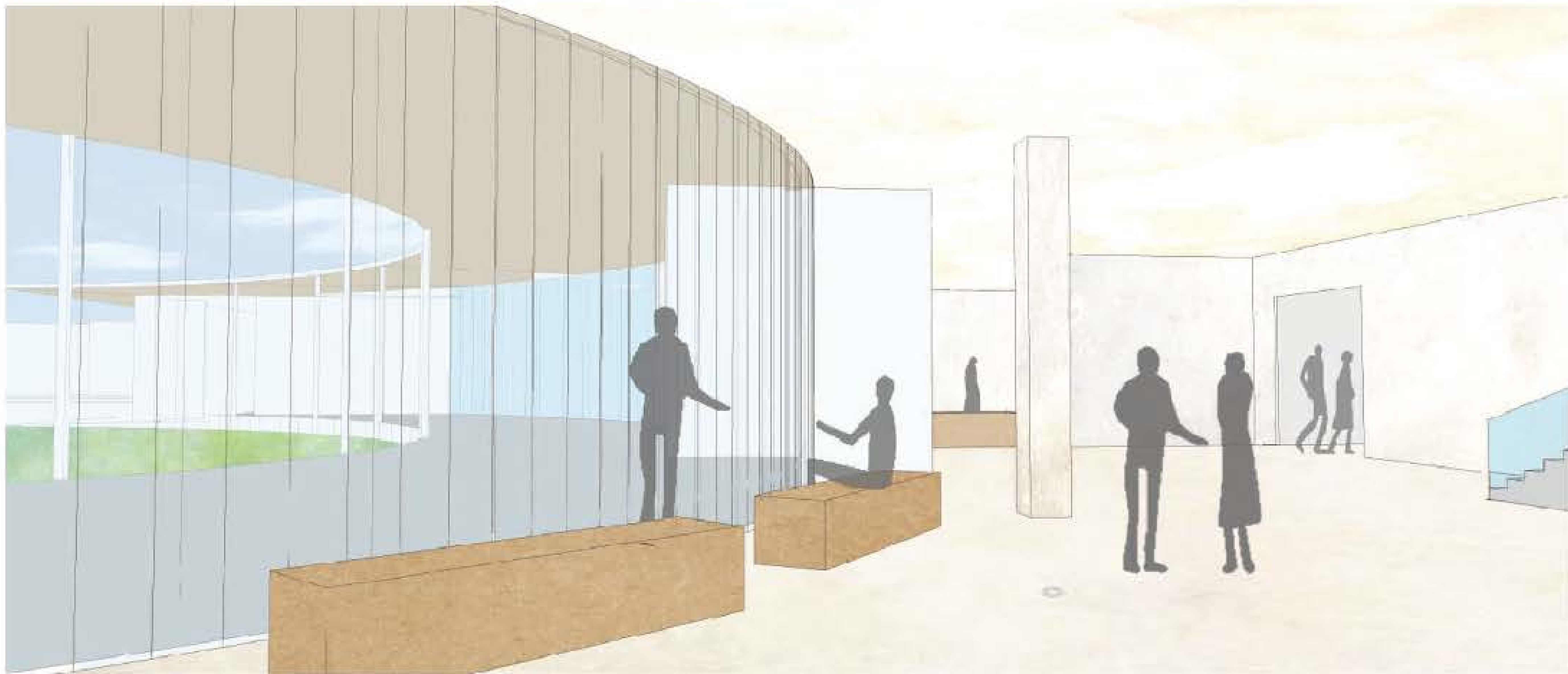
伊勢の旅を知る。
かつては憧れとされていた伊勢の旅の文化に触れる。

河崎で暮らす人



伊勢の旅の歴史を改めて学ぶ。
地域の人も参加できる展示やイベントを行う。

1階は伊勢参宮の歴史についての展示、2階は現在の伊勢への旅についての展示や、企画展示を行う。
中庭側には広いホワイエやロビーを設けることで、そこから中庭を臨むことができ、ゆっくりと過ごすことができる。



ロビーから中庭を眺める

エントランスホール	260 m ²
展示室	1800 m ²
収蔵庫	145 m ²
事務室	745 m ²
トイレ	95 m ²
その他	745 m ²
合計	4,120 m ²



X-X' 断面図 1/200

0 5 10 20 40m

ミュージアムショップ+ライブラリー



道路からファサードを見る。
ファサードの底の高さは歩く人のスケールに合わせた高さとなっている。

観光客



<ミュージアムショップ>
ミュージアムに関連した商品や伊勢の特産品などを買う。
<ライブラリー>
情報を詳しく知る。観光ガイドなどを利用して旅の計画を立てる。

河崎で暮らす人



<ミュージアムショップ>
ミュージアムショップと併設されたショップで河崎で暮らす人が手がけた作品や商品を販売できる。
<ライブラリー>
伊勢の歴史や情報を学ぶ

ミュージアムショップ	330㎡
ライブラリー	210㎡
事務室	40㎡
トイレ	36㎡
その他	300㎡
合計	915㎡

ミュージアムショップ

歩行者が建物の中の様子を伺うことができるよう、大きなガラスのファサードとする。そして歩道から中へと引き込むために、徐々にセットバックさせていく。



ミュージアムショップからファサードを見る

ライブラリー

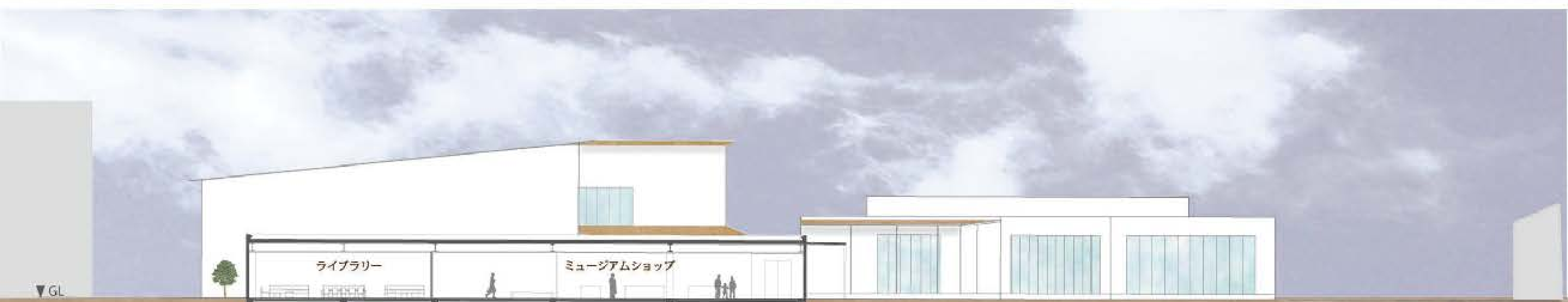
ミュージアムショップの奥にあるライブラリーは、ミュージアム利用者やまちの人々がショップを利用することに加えて立ち寄れる場所となる。



ミュージアムライブラリー



東側立面図 1/200



Y-Y 断面図 1/200

0 5 10 20 40m

ホール+レストラン



ホール+レストラン外観

観光客



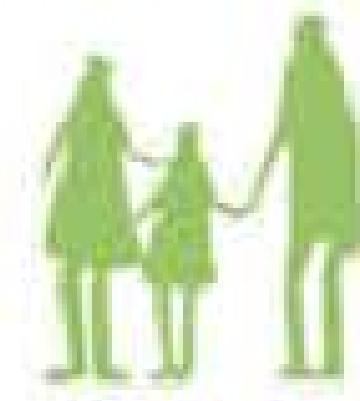
<ホール>

レクチャーや展示に関する講演や伊勢の踊りを見て楽しむ

<レストラン>

展示に関連した伊勢の料理を食べる

河崎で暮らす人



<ホール>

地域の集会や催しで利用し人々が集う

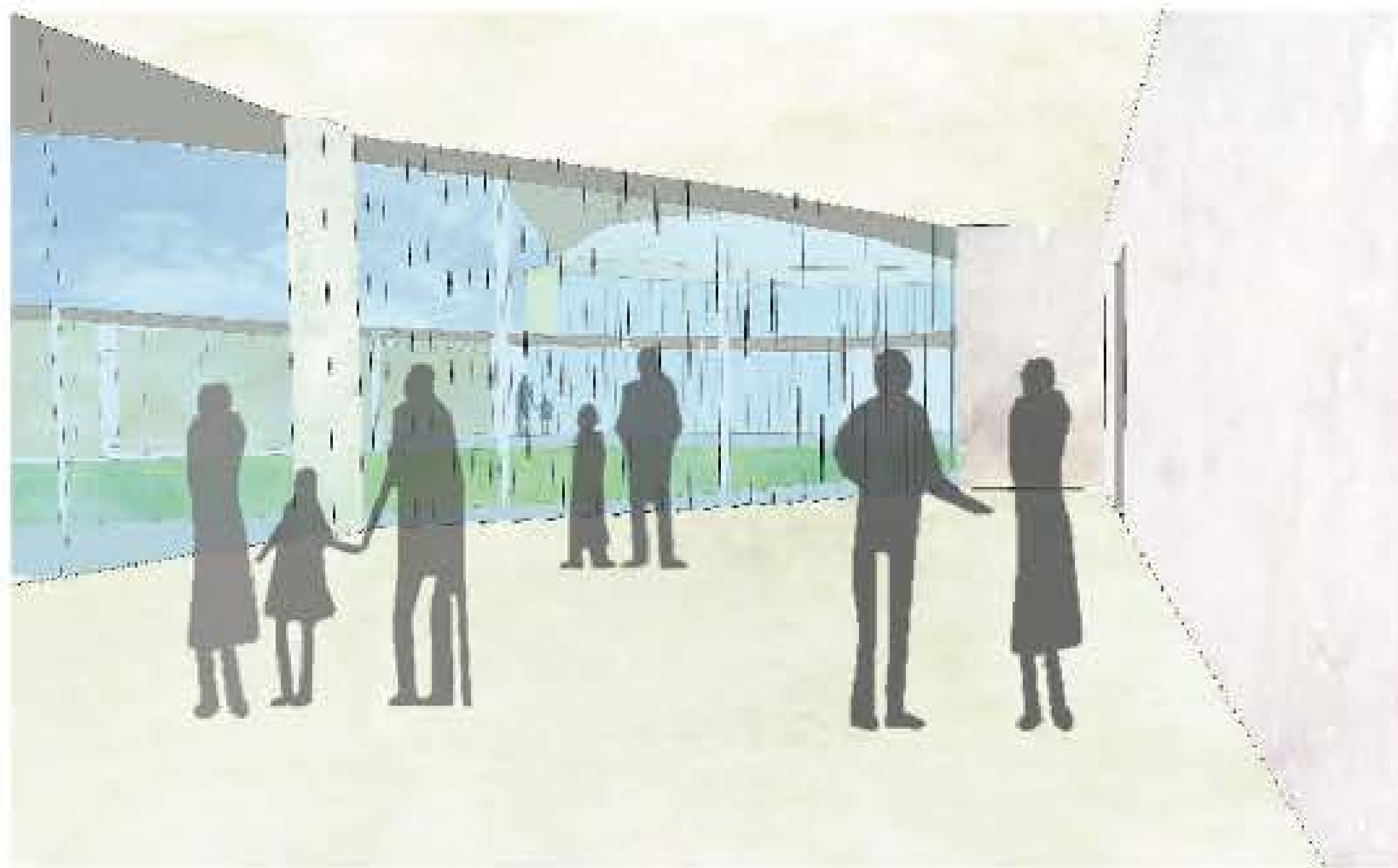
<レストラン>

地元の食材を利用した料理を食べる河崎で暮らす人が集まって食事をする事ができる

ホール	380㎡
ホワイエ	200㎡
レストラン	380㎡
事務室	35㎡
トイレ	25㎡
その他	130㎡
合計	1,150㎡

ホール

ミュージアムの講堂と市民ホールの役割を持つ。
ホワイエからはミュージアムを臨むことができる。



ホワイエから中庭を臨む

レストラン

ホワイエとつながるレストランは、ミュージアム、ホールの利用者をはじめ、まちで暮らす人々が集まることのできる場所となる。
3つの建物の入り口部分に位置するため、外部からもアクセスがしやすい。



レストランから中庭を臨む

▼CL



北側立面図 1/200

▼CL



Z-Z' 断面図 1/200

0 5 10 20 40m

